

文化財担当職員・学芸員が滋賀の宝を魅力的にご紹介！

会 場

コラボ
しが21

3階 大会議室
もしくは 中会議室
滋賀県大津市
打出浜2-1

時 間

13時30分～15時
(受付開始 13時15分から)

平成25年度
滋賀の文化財講座

打出の
ユヅチ

全8回

受講無料

募集人数

200名

事前予約制

当日参加も可

第1回

5月23日(木)

平成24年度滋賀県新指定文化財説明会

〈講師〉県教委文化財保護課各担当者

第2回

6月20日(木)

近江巡礼展 -琵琶湖文化館の至宝、全国巡回へ-

〈講師〉井上 ひろ美(県立琵琶湖文化館)

第3回

7月25日(木)

サンヤレ・ケンケト・ハナバイ

-近江の除疫行事-

〈講師〉矢田 直樹(県教委文化財保護課)

第4回

8月29日(木)

北比良天満神社の天王立像

-新指定重要文化財から-

〈講師〉古川 史隆(県教委文化財保護課)

第5回

9月19日(木)

修理現場から文化財の魅力を発信する

-国宝日吉大社東本宮本殿の檜皮葺-

〈講師〉寺西 正裕(県教委文化財保護課)

第6回

10月17日(木)

奇想・奇僧の画家たち

-若冲・蕭白・月僊・金谷-

〈講師〉上野 良信(県立琵琶湖文化館)

第7回

11月21日(木)

梵鐘を守れ！

-地域文化財をめぐる戦時下の裏面史-

〈講師〉井上 優(県教委文化財保護課)

第8回

12月19日(木)

普賢菩薩像の表現

-普賢十羅刹女像を中心に-

〈講師〉宮尾 素子(県立琵琶湖文化館)

主催: 滋賀県教育委員会

(主管: 文化財保護課)

滋賀県立琵琶湖文化館

協賛: 琵琶湖文化館友の会

後援: 滋賀県文化財保護連盟

公益社団法人びわこビジュアルアーチ

※ 都合により内容が変更となる場合があります。

参加のご予約・お問い合わせは…

滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先

TEL:077-522-8179 FAX:077-522-9634

e-mail biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

会場に駐車場はございません。
市営駐車場等をご利用頂くか、
公共交通機関でお越し下さい。

平成25年度 全8回
滋賀の文化財講座

打出のコヅチ

第1回

5月23日(木)

平成24年度滋賀県新指定文化財説明会

平成25年(2013年)3月19日、県教育委員会は建造物1件、絵画1件、彫刻1件、工芸品1件、考古資料1件、歴史資料1件の有形文化財と無形文化財1件について新たに文化財指定し、史跡1件の追加指定と名称変更を行うとともに、無形民俗文化財1件を無形民俗文化財として選択しました。平成24年度、新たに「県民の宝」となったそれらの新指定文化財について、文化財保護課の各担当者がわかりやすく説明します。

第2回

6月20日(木)

近江巡礼－琵琶湖文化館の至宝、全国巡回へ－

琵琶湖文化館の館蔵品と寄託品は、「滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美」近江巡礼 祈りの至宝展」として、今年1月の静岡市美術館での開催を皮切りに、7月に仙台市博物館、来年3月に島根県立古代出雲歴史博物館で公開されます。国内各所、そして国外でも紹介された琵琶湖文化館の至宝の数々とその反響を報告します。

第3回

7月25日(木)

サンヤレ・ケンケト・ハナバイ

—近江の除疫行事—

滋賀県内各地では、神仏に奉納されるさまざまな種類の祭礼行事が伝えられています。今回は、湖東や湖南、甲賀などで多く見られる「サンヤレ踊り」や「ケンケト踊り」などと称される民俗芸能や「ハナバイ」と呼ばれる祇園花行事について取り上げます。地域の人々の暮らしのなかで、このような祭礼行事にはどのような祈りが込められていたのかについて考えます。

第4回

8月29日(木)

北比良天満神社の天王立像

—新指定重要文化財から—

比良山麓の天満神社に安置される天王立像は、力ヤ材の一本造等身像で10世紀の制作と考えられています。本像の特色として注目されるのが、像の表面に細かい鑿目を残している点で、彫刻史上このような仕上げを鉛彫と称しています。本講座では、鉛彫像のなかでも屈指の古作とされる本像について、日本彫刻史における位置づけ、さらには鉛彫の発生と神仏習合との関わりについて解説します。

第5回

9月19日(木)

修理現場から文化財の魅力を発信する

—国宝日吉大社東本宮本殿の檜皮葺—

国宝日吉大社東本宮は文禄4年(1594)に再建された、「日吉造」の代表的建築です。平成24年度の修理では、屋根の檜皮を全面的に葺替え、飾金具の金箔押直しと高欄の朱漆の塗直しを実施しました。また、見学通路を設けて多くの方に修理現場を見学いただくとともに、檜皮葺の模型やパネルの展示、テレビ番組の制作・放映・DVD版作成などを通じて、文化財修理の技法と魅力について広く発信することにも努めました。それらの新しい試みと成果について、担当技術者が報告します。

第6回

10月17日(木)

奇想・奇僧の画家たち

—若冲・蕭白・月僊・金谷—

「奇想の画家」と呼ばれた伊藤若冲・曾我蕭白は、強烈な個性ゆえに「異端」扱いされて注目されませんでしたが、評価は海外から高まりを見せ、今日では最も注目される画家たちです。月僊・金谷はともに浄土宗の画僧です。二人はまた、僧侶にあるまじき奇行をはたらく「奇僧」でしたが、奇行の陰で社会貢献に努力した知られざる側面も共通します。本講座では、このような「奇想・奇僧の画家たち」の作品を通して、その人となりを紹介します。

第7回

11月21日(木)

梵鐘を守れ!

—地域文化財をめぐる戦時下の裏面史—

戦時下の総動員体制のなか、梵鐘や仏具など大型金属製品の供出が進められました。そうした中で、梵鐘に刻まれた銘文が、地域の歴史を語る資料として親しまれていることなどから、地域ぐるみで供出から守ろうと運動した例もありました。昭和17年度に県へ提出された「供出除外申請」の数々と、申請を受けて文化財を守ろうと尽力した技師の姿を通して、「戦争と文化財」をめぐる知られざる歴史を紹介します。

第8回

12月19日(木)

普賢菩薩像の表現

—普賢十羅刹女像を中心に—

普賢菩薩は、天台宗の根本經典である法華經の中で修行者を保護する仏として、人々の厚い信仰を集め、信仰にまつわる仏教絵画や彫刻などが数多く作されました。中でも法華經は女性の救済を説いていることから、女性が登場する普賢菩薩の画像も多く制作されました。

本講座では「普賢十羅刹女像」を取り上げ、尊像の描かれ方などの絵画的特徴を解説し、さらに信仰の背景に迫ります。

日時・タイトル・講師および内容の一部については、都合により変更となる可能性があります。最新の情報については逐次報道発表するとともに、滋賀県立琵琶湖文化館ホームページ (<http://www2.ocn.ne.jp/~biwa-bun/>) に掲載しますので、直前にご確認の上、参加いただきますようお願い申し上げます。